

東大阪病院 外科 新聞

5月号

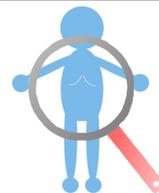
発行元 東大阪病院

<http://www.yurin.or.jp/>

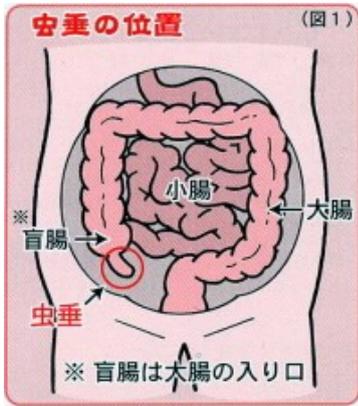
【お問い合わせ】

東大阪病院代表電話
06-6939-1121

急性虫垂炎とは？



よく耳にする病気の一つ。 でも、知らないことだらけ。



盲腸は盲腸で起きていない？ 虫垂について

まずは俗にいう盲腸（盲腸炎）が起きる場所についてご説明しましょう。

盲腸は、実は盲腸では起きていません。盲腸にぶらさがっている

虫垂（ちゅうすい…図1参照）という部分で起こります。ですから、一般的に盲腸や盲腸炎とよばれている病気は、正確にいうと虫垂炎（急性虫垂炎）となります。

虫垂にはリンパ組織が集まっています。このため腸扁桃（ちようへんとう）とよばれており、免疫に関わる器官だともいわれています。しかし、大腸の一部でありながら、消化・吸収の働きはしていません。
なぜ起こる？どんな症状？
急性虫垂炎の原因と症状

急性虫垂炎は、虫垂に急性化膿性の炎症が起こる病気です。その原因ははっきりとしていません。

せんが、何らかの理由（虫垂がねじれる、虫垂内部に便や粘液がたまるなど）で血行が悪くなり、そこに大腸菌などの腸内細菌やウイルスが侵入して発症すると考えられています。また、暴饮暴食や過労、不規則な生活、便秘、胃腸炎などが誘因となることも、しばしばあるようです。

症状としては、まず腹痛があげられます。最初はみぞおちあたりに、そして次第に下腹部の右側に痛みを感じます。この痛みは時間が経つにつれてひどくなっています。

ただし、お腹全体や、おへそのあたりが痛くなるといったように、痛みの感じる場所や感じ方に

は個人差があります。また、お子さんやお年寄りの場合、痛みが軽かったり、うまく痛みを訴えられない場合もありますから、注意しましょう。

この他、37〜38℃前後の発熱や食欲不振、吐き気や嘔吐、便秘などもみられます。

**油断できない虫垂炎！
急性虫垂炎を放置すると**

前記したように、急性虫垂炎は虫垂に化膿性の炎症が起きる病気。つまり、放置していると虫垂に膿が溜まってしまいます。しかも、症状が悪化すると虫垂の壁が破れ（穿孔といいます）、溜まっていた膿が腹腔内に放出されてしまいます。こうなると、腹膜炎を併発するなどの危険性があるのです。

**切除するか、「散らす」か
急性虫垂炎の診断と治療**

急性虫垂炎が疑われる場合の診察では、まず問診と触診が行われます。血液検査（急性虫垂炎になると白血球の数が多くなる）や超音波検査、CTを使った検査を行い、進行度や周辺器官への影響などを確認します。

その後、治療となるわけですが、その治療法は大きく分けて2つ。手術療法で虫垂を切除するか、抗生物質を使って炎症を緩和する、俗にいう「散らす」かのどちらかになります。この判断は、発症してからの経過時間や、炎症の進行度、穿孔が生じているかどうか、などを踏まえた上で判断されます。

急性虫垂炎の進行の仕方



「お腹が痛いくらい大丈夫」と我慢せず、重篤な状態になってしまう前に、すぐに医療機関（外科または胃腸科）を受診して下さい。